

類すべきである。これらの癌関連性の糖鎖抗原は、構造からみると、母核、基幹および修飾構造の3つの部分からなる。基幹構造には一型糖鎖と二型糖鎖の二種類がある。

一型糖鎖に属する抗原には CA 19-9, CA 50, SPan-1, KMOI, NCC-ST-272, 2D3 シリーズ, CA 195 などがある。これらの一型糖鎖抗原はいずれも、肺癌をはじめとする消化器系統の癌の患者の血清で陽性率が高いという共通した特徴を持っている。

二型糖鎖に属する抗原にはシアリル SSEA-1, CSLEX-1 などがある。これらの抗原はいずれも、肺癌、卵巣癌などの患者血清で陽性率が高いという共通した特徴をもっている。消化器系の癌では

肺癌で高い陽性率を示す。

母核糖鎖のうち現在臨床応用が進められているものはシアリル Tn 抗原のみである。CA 72.4 や STN がこれにあたる。いずれも卵巣癌で高率に高値となる。消化器系の癌では、胃癌にしばしば高値となる。

このように、構造の別によってこれらの糖鎖性の腫瘍マーカーを分類すると、それぞれのグループごとに共通した臨床的特徴がみられる。これらの糖鎖抗原は、いずれも分化抗原としての生理的意義を持つと同時に、同種抗原にも深く関連している。本シンポジウムでは、これらの糖鎖性の腫瘍マーカーの生理的意義とその臨床的特徴について最近の研究結果を紹介する。

追加発言 1: 腸管癌マーカー (CA 72-4)

浜 津 尚 就 (滋賀医科大学放射線部)

【目的】モノクローナル抗体 (TAG-72) を認識する CC 49, B 72-3) を用いた CA 72-4 キットの臨床的評価および、CA 72-4 抗原の性状について検討した。

【結果】①健常人82例の CA 72-4 値は、0.25~3.1 U/ml に分布し有意な男女差はなく、mean \pm 2SD は 1.6 ± 1.4 U/ml となり cutoff 値を 3.0 U/ml とした。各種悪性疾患 376 例の測定から陽性率は、食道癌 40.0%, 胃癌 38.7%, 大腸癌 52.0%, 肝癌 33.3%, 胆道癌 40.0%, 膈癌 39.1%, 肺癌 38.1%, 乳癌 32.0%, 卵巣癌 28.6% であった。異常高値例は消化器癌でその多くは進行癌であった。胃癌の stage I, II 期では陽性率が低く III 期, IV 期の進行癌では陽性率が増加し測定値も高値を示した。CA 19-9 との関係を検討したところ、有意な相関は認められなかつたが、CA 19-9 (-) で CA 72-4 (+) 症例は 21.3% あつた。CEA も同様であったので combination assay を検討すると、単独測定より 10% 前後も陽性率が上昇し、CA 72-4 を加えた combination assay が

有用であると確認した。②CA 72-4 抗原の耐熱性を調べた結果 65°C で 95.1%, 100°C で 83.4% の残存活性を認め、過塩素酸 (1 M PCA) による抽出性を調べた結果では癌患者で平均 70.0% が抽出された。血清ムコ多糖を分離する Bollet らの方法より euglobulin 分画中の各種マーカーを測定すると、その活性割合は CA 19-9 で 70.6%, CA 125 84.9%, SLX 91.6%, CA 15-3 48.7%, CEA 8.9% であった。CA 72-4 は、53.5~99.8% に分布しその平均は 80.0% であった。

【結論】①健常人の測定から cutoff 値を 3 U/ml とした。②CA 72-4 は、消化器癌、特に大腸癌、胃癌、胆管癌に陽性率が高く、異常高値例は進行癌に多かった。③癌患者において CA 19-9 や CEA と相関が認められなかつたが、combination assay は臨床的に有用と思われた。④CA 72-4 は耐熱性であり PCA 抽出可能であった。その分子量は 100 万以上と推定され、euglobulin 分画に高い活性分布を認めたので、血清中においてはムチン様の物質と推定された。